

《研究課題名》

後腹膜腫瘍における GGCT 発現の探索的検討

《研究対象者》

2010 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに当科において後腹膜腫瘍および膀胱癌に対する手術治療を受けた方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の保存病理標本とカルテ情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への試料・情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2030 年 12 月 31 日

《研究責任者》 滋賀医科大学 泌尿器科学講座 影山 進

（２）研究の意義、目的について

《意義》 後腹膜腫瘍のような希少がんの領域では、膀胱癌などの患者数の多い癌に比べて新規抗がん剤の開発は立ち遅れています。外科的切除では根治できない進行期への治療薬が極めて少ないという点が問題です。本研究では、私たちが以前から研究しているがん増殖因子 GGCT（ γ -グルタミルシクロトランスフェラーゼ）が希少がんの新たな治療標的となり得るかを探索します。後腹膜腫瘍での GGCT 高発現が認められれば、新規の治療標的としての発展性が望めます。

《目的》 本研究では滋賀医科大学医学部附属病院において手術切除を行った後腹膜腫瘍の保存病理検体における GGCT 発現の探索を目的とします。

（３）研究の方法について

《研究の内容》 当院で手術を行い摘出した後腹膜腫瘍および膀胱癌の保存病理検体を用いて、免疫組織化学という手法で GGCT タンパク質の発現度合いを調べます。なお、膀胱癌は過去の研究で GGCT 発現が高い癌であることが知られていますので、対照とするために本研究に用います。

《利用し、又は提供する試料・情報の項目》

当院保存の後腹膜腫瘍および膀胱癌のホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）標本およびカルテ情報を用います。

《試料・情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学 学長 上本 伸二

（４）個人情報等の取扱いについて

本研究を実施する際には、あなたの試料・情報から、あなたを特定できる情報（氏名、生年月日、住所等）を除き、代わりに本研究用の ID を付けることで、その試料・情報が誰のものであるか分からない状態にします。ただし、必要な場合に特定の個人を識別できるように、あなたと ID を結び付けることができるような加工をした情報を残します。尚、加工された情報は、施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

（５）研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

（６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（７）利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の試料・情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、下記（８）にご連絡ください。

（８）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 泌尿器科学講座 影山 進

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2273

メールアドレス：hquro@belle.shiga-med.ac.jp